

おみわた 御神渡り 5季ぶりに出現 諏訪湖

諏訪湖に御神渡り(おみわた)りが5季ぶりに出現した。御神渡りの拝観などの神事をつかさどる諏訪市小和町の八剣神社が1日朝の監視で、同市渋崎の旧六斗川河口近くの岸から沖に伸びる筋のせり上がり、筋の起点(下座)と上座(上座)を確認。宮坂清宮司(67)は「拝観式に向けて準備を整えたい」と語った。同神社は早急に臨時の総代会を開き、御神渡りを正式認定する拝観式の日程を決める。

御神渡りは、せり上り(み)が、下社の女神・八坂刀売神(やさかと)と上座(あがり)と下座(くだり)とされる。今季の御神渡りは、1月15日に全面結氷したものの、その後の大雨と寒の緩み、強風で一

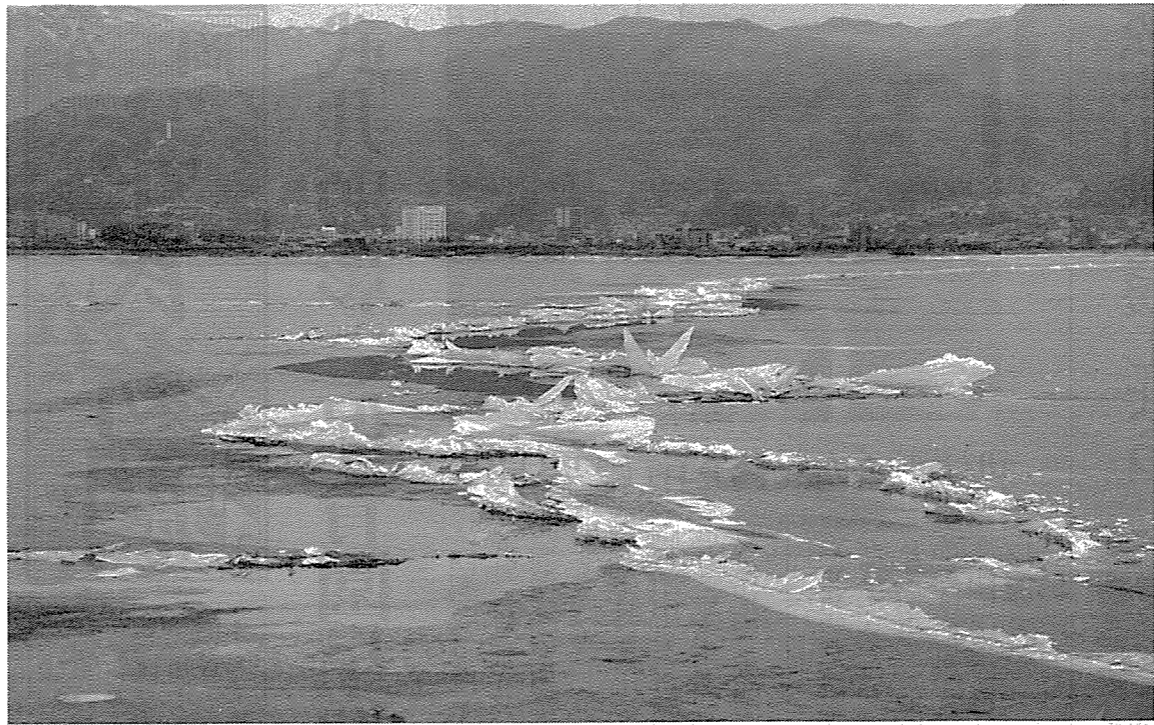
度解けたが、氷点下11・4度まで冷え込んだ27日朝、再び全面結氷。28日も最低気温が氷点下10度を下回り、安定した水になった。冷え込みは29日からやや緩み、寒暖差で下諏訪町の赤砂崎沖や高



諏訪市渋崎を起点に沖に伸びる御神渡りを確認する八剣神社の関係者=1日午前7時15分ごろ

木沖、岡谷市の湊沖などに氷のせり上がりが見られ、複数出現した。しかし、いずれも諏訪湖の東西に伸びる筋で、上座がある諏訪市側から下社のある下諏訪町側へ伸びる南北の筋が確認されたのは、31日朝だった。1日の監視も、いつも通り午前6時半から開始。諏訪市豊田の舟渡川河口の水面上に出て、渋崎の旧六斗川河口近くの岸から沖に伸びる筋に沿って進み、水のせり上がりの状態や筋の起点などを確認した。

御神渡りは、諏訪湖の南北に伸びる筋2本(一の御神渡り、二の御神渡り)と、東から西に向かう筋1本(佐久の御神渡り)が交差して認定される。どの筋がどの御神渡りに認定するかは臨時の総代会で決定される。宮坂宮司は「良かった。もっとせり上げたい。この2、3日期待して待ち、拝観したい」。宮坂英木大総代(73)は「拝観式を行うのにふさわしい状況になってきた。もう一日氷の状態などを確認して、総代会を開きたい」と語った。



岡谷市湊沖にできた御神渡り。氷のせり上がりは最大で50センチ程度=1日午前8時半ごろ

5日に拝観式 諏訪湖の御神渡り

諏訪湖に出現した御神渡り(おみわた)りの神事は、2日夜、小和田の同神社齋館で臨時



総代会を開き、御神渡りを正式認定する拝観式を5日(月)に実施することを決めた。

危険！氷上には立ち入らないで

諏訪湖は全面結氷しているが、氷の厚さや強さにむらがあり、天然ガスが湧き出る「釜穴」も存在している危険。湖周の観光業者や警察、消防、関係団体でつくる諏訪地区観光客安全対策推進会議は、観光客や住民に対し「氷上へは絶対に立ち入らないように」と呼び掛けている。今季、落水者も確認されており、同会議は湖周のパトロールも強化している。

雪に覆われた湖上で氷の状態を確認する八剣神社の総代(右)2日午前7時ごろ、諏訪市豊田の舟渡川河口付近